



# Messidor Ensemble

メシドール・アンサンブル演奏会

2015年5月24日(日)

ティアラこうとう小ホール

# メシドール・アンサンブル演奏会

ヨハン・セバスチャン・バッハ  
『音楽の捧げ物』 BWV1079 より

## 大王の主題

### トリオソナタ

- 第 1 楽章: *Largo*  
第 2 楽章: *Allegro*  
第 3 楽章: *Andante*  
第 4 楽章: *Allegro*

————— 休憩 (10 分間) —————

ヨハン・セバスチャン・バッハ

## 『ゴルトベルク変奏曲』 BWV988 (弦楽版)

### *Aria*

- |         |                         |         |                             |
|---------|-------------------------|---------|-----------------------------|
| 第 1 変奏  | 第 11 変奏                 | 第 21 変奏 | 七度のカノン                      |
| 第 2 変奏  | 第 12 変奏                 | 第 22 変奏 | <i>alla breve</i>           |
| 第 3 変奏  | 同度のカノン                  | 第 23 変奏 |                             |
| 第 4 変奏  | 第 13 変奏                 | 第 24 変奏 | 八度のカノン                      |
| 第 5 変奏  | 第 14 変奏                 | 第 25 変奏 |                             |
| 第 6 変奏  | 二度のカノン                  | 第 26 変奏 |                             |
| 第 7 変奏  | <i>al tempo de Giga</i> | 第 27 変奏 | 九度のカノン                      |
| 第 8 変奏  | 第 15 変奏                 | 第 28 変奏 |                             |
| 第 9 変奏  | 三度のカノン                  | 第 29 変奏 |                             |
| 第 10 変奏 | <i>Fugette</i>          | 第 30 変奏 | <i>Canon alla Quodlibet</i> |
|         | 第 16 変奏                 |         | <i>Aria da capo</i>         |
|         | <i>Ouverture</i>        |         |                             |
|         | 第 17 変奏                 |         |                             |
|         | 第 18 変奏                 |         |                             |
|         | 六度のカノン                  |         |                             |
|         | 第 19 変奏                 |         |                             |
|         | 第 20 変奏                 |         |                             |

フルート：金井 麻子  
ヴァイオリン：林 俊夫  
孫 尚卿  
ヴィオラ：大越 夏子  
チェロ：坂本 謙太郎  
コントラバス：島田 奈央  
チェンバロ：小川 知子

2015 年 5 月 24 日 (日) 14 時 00 分 開演  
ティアラこうとう 小ホール

## 曲目解説

1517年、マルティン・ルター(1483-1546)が宗教改革の狼煙を上げた時、西欧社会は行き詰っていた。カトリックの社会システムではもはやそれ以上の発展が難しくなっていたのだ。宗教は一種の哲学であり、人々の素朴な疑問に応え、人々を戒め、社会秩序を維持する役割を負っている。そのために最先端の自然科学・社会科学の知識を動員するのは宗教者の常だ。しかし、その光が届かない部分は想像と創作、あるいは因習によって埋めざるを得ない。その結果が、カトリック教会の場合は、天地創造の神話や天動説、利益追求の禁止だった訳だ。

ルネサンス期を経て科学が発達すると、そのような創作の信憑性に綻びが生じた。「それでも地球は動いている」のであり、利潤追求を奨励しなければ経済・社会が発展できないのは明らかだった。プロテスタントイズムはこのような矛盾に耐えきれなくなったカトリックに代わる新秩序として登場したのである。

科学が突き付ける事実と神の存在の矛盾を解消するため、プロテスタントは“大発明”をした。それが「聖書やカトリック教会の教えなど人間の手による記録は、解釈の間違いを含み得る。一方科学が明らかにする法則は神の創造物そのものであり、その意志を直接的に体現している」という考え方である。これによってプロテスタントイズムは地動説・万有引力・資本主義などの法則と神の存在を調和させ、

停滞していた西欧社会に再び発展をもたらしたのである(その資本主義も今や限界に達しつつあるが…)

以来プロテスタントにとって、科学法則を探求することは神の存在を証明する宗教的な行為となった。そして音楽もまた、天体や図形、数列と並んで科学的研究の対象となった。音は空気振動であり、和音は複数の振動の共鳴という物理現象、すなわち神の創造物であるから、それに基づく音楽が関心の対象となるのは当然のことだったのだ。

プロテスタントの作曲家は感性に任せて音を並べるよりも、むしろ和音や旋律に潜む規則性を探求することで神の意志を確かめ、それを運用して見せることで神の存在を証明しようとした。その成果が和声法や対位法であり、それを集大成したのがヨハン・セバスチャン・バッハ(1685-1750)である。中でもカノンやフーガなどの対位法は彼が生涯をかけて探求したライフワークと言って良い。

カノンとは平たく言えば輪唱である。基本的なカノンでは一声部(パート)が奏した旋律を、他の声部が時間差で追いかける。より複雑なカノンになると、第二の声部は最初の旋律を異なる音程(例えば二度の音程差がある場合、二度のカノンという)や楽譜を上下反転した形で追いかけたり、楽譜を最後から逆に演奏したりする。フーガでも一つの声部が提示した旋律を、他の声部が模倣する。ただし、それは

カノンほど厳密な模倣でなく、その代わりにより多くの声部が絡み合ったり、より複雑な展開をしたりする。

駅の発車ベルを引き合いに出すまでもなく、重なり合う複数の旋律は騒音でしかない。しかし、一定の法則に従えば旋律の層は和声的に破綻しない。それどころか、重なるが故に美しい和声を構成する。バッハにとっての作曲とは、そのような法則を探求し、その有効性、さらにはその創造者たる神の存在を証明する敬虔な活動だったのである。

バッハの作品はしばしば宗教曲と世俗曲に分類される。『音楽の捧げ物』『ゴルトベルク変奏曲』『フーガの技法』『平均律クラヴィア曲集』など、対位法や調性に対する彼の研究成果はいずれも後者に属し、宗教色のない作品として扱われている。しかし、このような見方をすれば、これらは極めて宗教的な作品とも言えるのだ。

### 『音楽の捧げ物』

1747年、62歳のバッハは若きフリードリヒ大王の宮廷に招かれた。大王は列強プロイセンの礎を築いた中興の祖であり、フルート演奏を嗜み、先進的な啓蒙専制君主だった。

謁見の折、大王は一片の旋律(譜例)を提示し、これを主題として3声のフーガを即興演奏するようバッハに

求めた。バッハがこれに見事応えると、大王はさらに6声のフーガを求めた。さしものバッハもこの難題に即興で応えることはできず、後日改めてこれ作曲し、大王に「音楽の捧げ物」として贈った。この逸話は当時の宮廷発表と新聞に基づいているが、報道や書き記された歴史が真実とは限らない。

現実の大王の要求はバッハに対する意地の悪い挑戦だった。長く、半音階を含む大王の旋律は、後にシェーンベルク(1874-1951)が評した通り「最もフーガに適さない」類のものだ。それを使ってバッハが神の御業と讃える対位法を破綻させようというのが、大王の魂胆だった。未来を見据える若き大王にとって老バッハは、打ち破るべき古き存在だったのである。

この挑戦に対して、バッハは日を改めてではあるものの見事に応え、彼の神を守り切った。大王に贈られた曲集には当初の課題であった3声、6声のフーガのみならず、各種のカノンも添えられた。これによって、バッハは複雑な大王の主題も神の手の内にあると証明したのである。さらには大王自らの演奏を想定してフルート・ヴァイオリン・通奏低音(チェンバロ・チェロ)のためのトリオンナタを含めるといふ余裕を見せた。ここでは大王の主題は細かい断片として各楽章に散りばめられている。それはあたかも隠し絵の様だが、バッハは意趣返しとして大王を試したのかもしれない。



## 『ゴルトベルク変奏曲』

この曲は元来チェンバロのための独奏曲であり、正式名称を「二段鍵盤付クラヴィチェンバロのためのアリアと種々の変奏」という。バッハの弟子ヨハン・ゴルトベルクが不眠症の伯爵のために演奏したという逸話からこの俗称で呼ばれる。この逸話故に子守唄と勘違いされることも多いが、一聴して分かる通り、この曲は枕元には適さない。現に伯爵も眠れぬ夜に気分を晴らすために、この曲からいくつかの変奏を演奏させたのである。

これ以降長らく続いた抜粋演奏の習慣は、ピアニスト グレン・グールド (1932-82) の登場で劇的に変わった。大ヒットした彼の 1955 年のレコードは、録音であるが故にごく自然に全曲を通して聴かれ、その結果バッハが意図した全体の有機的な結合にも人々の目を向けたのだ。

例えば、3 の倍数の変奏は常にカノンである。第 3 変奏では、最初の旋律

The image shows the first variation of the Goldberg Variations in bass clef, 4/4 time. The notation consists of four staves of music. Above the notes are figured bass symbols: 6, 3,5,6#, 6, 3,5,6, 6, #, 6, 6, #, 6, 6, #, 6, 3,5,6, #, 6, 6, 3,5,6. The first staff has a repeat sign at the end. The second staff has a repeat sign at the end. The third staff has a repeat sign at the beginning. The fourth staff has a repeat sign at the end.

グールドのもう一つの功績はこの曲を広く知らしめたことだろう。鍵盤楽器曲に疎い弦楽器・管楽器奏者は珍しくないが、グールドの演奏は彼らの耳にも届き、その結果この曲は様々な

を次の声部が同じ音程（同度）で模倣するが、第 6 変奏では G (ソ) で始まる最初の旋律を、次の声部は二度高い A (ラ) から始める（二度のカノン）。同様に第 9 変奏は三度のカノンとなり、最初の声部は H (シ) から、次の声部は三度低い G (ソ) から同形の旋律を奏する。この規則は第 27 変奏まで続くが、第 30 変奏だけは例外で、異なる旋律が絡み合うクオドリベット形式のカノンになる。

この曲を変奏曲として楽しむのも全曲を通して聴けばこそだろう。とはいえハイドン (1732-1809) 以降の変奏曲のように明解な旋律が変化していくのを期待すると肩透かしを食う。代わってこの曲全体を貫いているのは、譜例に示す低音主題（コード進行）だ。これはそのままの形では一度も登場しないが、アリアと 30 の変奏の底辺として全体を有機的に結び付け、定型のコードの上に展開されるジャズの即興演奏のような雰囲気醸し出す。

楽器用に編曲されることになった。弦楽器、金管楽器、サクソフォン、ギター等の幅広い表現力に助けられ、ゴルトベルク変奏曲は今も新たな讃美者を獲得し続けているのである。

## メシドール・アンサンブル

「メシドール」とはフランス革命暦にある月の名前の一つで、現在の6月19日から7月18日に相当。初回の演奏会がこの時期だったことが団体名の由来になっている。この時期は語感の爽やかさとは裏腹に、日本では梅雨に当たるため近年はやや早い時期に演奏会を開催することが多い。

演奏会のたびに‘いつか演奏したいと思っていた曲’を携えた有志が集う緩やかな集団を標榜しており、楽器編成・メンバーは毎回変わるため、これまでの出演者は社会人・学生・主婦・職業音楽家まで41名にのぼる。

### これまでの演奏会

#### 第1回 (2002年7月13日 於：新宿文化センター 小ホール)

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op. 49 (フルート版)

ブラームス：クラリネット五重奏曲 口短調 Op. 115

#### 第2回 (2003年7月6日 於：幕張ベイタウンコア 音楽ホール)

ハイドン：弦楽四重奏曲 二短調「五度」 Op. 76-2

ビゼー／シンプソン：フルート・チェロ・ピアノのためのカルメン幻想曲

ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲 へ長調「アメリカ」 Op. 96

#### 第3回 (2004年2月15日 於：新宿文化センター 小ホール)

モーツァルト：フルート四重奏曲 第1番 二長調 K. 285

オーボエ四重奏曲 へ長調 K. 370

アダージョとロンド 八短調 K. 617

ピアノ四重奏曲 第1番 卜短調 K. 478

#### 第4回 (2004年11月20日 於：ティアラこうとう 小ホール)

メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲 第1番 変ホ長調 Op. 12

キュフナー(伝ウェーバー)：クラリネット五重奏のための 序奏、主題と変奏

シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調「鱒」 Op. 114

#### 第5回 (2005年7月10日 於：ティアラこうとう 小ホール)

ヴォルフ：イタリアのセレナーデ 卜長調

モーツァルト／ヴェント：フルート四重奏のための『魔笛』より抜粋

チャイコフスキー：弦楽四重奏曲 第1番 二長調 Op. 11

#### 房音くらぶ 音楽祭 (2005年8月20日 於：南総文化ホール 小ホール)

モーツァルト：弦楽五重奏曲 第4番 卜短調 K. 516 より第1楽章

#### 第6回 (2006年4月30日 於：ティアラこうとう 小ホール)

モーツァルト／ロットラー：弦楽五重奏曲 第2番 K. 406 八短調 (木管五重奏版)

ベートーヴェン：七重奏曲 変ホ長調 Op. 20

**第7回 (2007年5月13日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

ベートーヴェン：アダージョとロンド (六重奏曲 変ホ長調 Op. 81b より)

ボロディン：弦楽四重奏曲 第2番 二長調

モーツァルト：ディヴェルティメント 第17番 二長調 K. 334

**第8回 (2008年6月29日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

バッハ：管弦楽組曲 第2番 口短調 BWV1067

シューベルト：八重奏曲 へ長調 D. 803

**美浜音楽祭 (2009年3月21日 於：幕張ベイタウンコア 音楽ホール)**

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 Op. 49 (フルート版)

**第9回 (2009年6月21日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

シェーンベルク：浄夜 Op. 4 (弦楽六重奏版)

ブラームス：弦楽六重奏曲 第1番 変口長調 Op. 18

**第10回 (2009年11月22日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

モーツァルト：フルート四重奏曲 第1番 二長調 K. 285

プーランク：ピアノと管楽器のための六重奏曲

チャイコフスキー：弦楽六重奏曲 二短調 Op. 70 「フィレンツェの想い出」

**第11回 (2010年7月3日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第7番<ラズモフスキー第1番>Op. 59-1

ラインベルガー：九重奏曲 変ホ長調 Op. 139

**第12回 (2010年12月12日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

モーツァルト：フルート四重奏曲 第4番 イ長調 K. 298

シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番 二短調 D. 810 「死と乙女」

ベートーヴェン：クラリネット三重奏曲 変口長調 Op. 11 「街の歌」

J. シュトラウス2世/シェーンベルク：皇帝円舞曲 Op. 437 (七重奏版)

**第13回 (2011年11月13日 於：聖路加国際病院 トイスラー記念ホール)**

モーツァルト：クラリネット五重奏曲 イ長調 K. 581

ラヴェル：弦楽四重奏曲 へ長調

サン=サーンス：七重奏曲 Op. 65

**第14回 (2013年4月21日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

モーツァルト：フルート四重奏曲 第3番 八長調 K. 285b

セレナーデ 第13番 ト長調 K. 525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

ブラームス：ピアノ五重奏曲 へ短調 Op. 34

**第15回 (2014年5月25日 於：ティアラこうとう 小ホール)**

R. シュトラウス：オペラ『カプリッチョ』より前奏曲

R. シュトラウス/レオポルト：メタモルフォーゼン (弦楽七重奏版)

ブラームス：弦楽六重奏曲 第2番 ト長調 Op. 36

## 出演者の横顔

### フルート：金井 麻子

上智大学管弦楽団、オーケストラ・ディマンシュ、幕張ベイタウンオーケストラ、美浜音楽祭祝祭管弦楽団等で首席奏者を歴任。結婚後姓は変わっているはずだが、チラシ制作担当者が変え忘れたため、以来旧姓で通している。現在は子育ての傍ら、メシドール・アンサンブル公認専属炊事係（飯どーる）を務める。

### 第一ヴァイオリン：林 俊夫

5才よりヴァイオリンを始め、大阪大学交響楽団、大阪モーツァルトアンサンブル、東京ムジックフロー、アンサンブル 70sなどでコンサートマスターを歴任。現在はヴァイオリンを田中直子氏に師事。当団にはこれまでヴィオラで7回出演しているが、今回は満を持してヴァイオリンでの登場である。

### 第二ヴァイオリン：孫 尚卿

ピアノを柳桂子氏、ヴァイオリンを上月恵氏・金田幸男氏に師事。早稲田大学交響楽団で第二ヴァイオリン首席奏者を務める。学生時代に当団主宰者の職場でアルバイト勤務。その働きぶりを踏まえた「君は研究者よりも営業向き」といういい加減な助言を真に受けて、セールスエンジニアの道に進んだ。

### ヴィオラ：大越 夏子

音楽活動の誘いは絶対に断らないため、毎週土日は朝昼晩6コマの練習をこなすことも珍しくない。練習後の酒の誘いも絶対に断らないが、

酔っても自分について多くを語らないため、人物像は謎に包まれている。本人は「平日は普通のOL」と言うが、それにしても不自然なことが多く、現代社会の黒幕として暗躍しているのではないかと疑われる。

### チェロ：坂本 謙太郎

菅野博文氏（昭和音大教授）、F.バルトロメイ氏（ウィーンフィル首席奏者）らに師事。当団を主宰する傍ら、江東オペラ管弦楽団等で首席奏者を務める。師の自叙伝『ウィーン国立歌劇場とバルトロメイ家の120年』（仮題・共訳）を近く音楽之友社より出版予定。本業は経営コンサルタントらしいが、仕事しているのかは謎。

### コントラバス：島田 奈央

中学校でコントラバスを始め、高校の管弦学部では部長として天下をとる。大学のオーケストラに入団するも一度知った天下の味を忘れられず1年で退部し、十代のうちから社会人オーケストラに参加。コントラバス奏者の常として、ジプシーのようにさまざまな音楽団体を旅しているため、東京の音楽界での顔はやたらに広い。

### チェンバロ：小川 知子

ドイツ国立ケルン音楽大学ピアノ専攻卒業。オランダ・スヴェーリンク音楽院修了。オランダ国家演奏家資格取得。小川尚子、野呂愛子、谷廉子、杉山哲雄、外山準、カリン・メーレ、ヴィレム・ブロンズの各氏に師事。名古屋芸術大学、金城学院大学にて講師を務める。

当ページの内容は若干の誇張と多分な言葉遊びを含んでいます。



### メシドール・アンサンブル 第17回演奏会

2016年5月22日（日） 14:00 開演

於：ティアラこうとう 小ホール

詳細は随時当団ウェブサイトにてお知らせします。

<http://artist.musicinfo.co.jp/~messidor/>